

- II-5 視線検出装置 (Gazefinder) を用いた ASD 早期診断の有用性の検討
 ○斉藤まなぶ¹⁾ 坂本由唯²⁾ 吉田和貴²⁾ 柞木田なつみ²⁾
 松原侑里²⁾ 吉田恵心³⁾ 足立匡基³⁾ 高橋芳雄³⁾ 安田小響³⁾
 栗林理人³⁾ 中村和彦²⁾³⁾
 (弘前大学医学部附属病院神経科精神科¹⁾
 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座²⁾
 弘前大学医学部附属子どものこころの発達研究センター³⁾)

- II-6 当科における甲状腺乳頭癌治療の現状と課題
 ○西 隆、井川明子、西村顕正、袴田健一
 (弘前大学医学部附属病院 消化器・乳腺・甲状腺外科)

- III-7 ウイルス感染と胆道閉鎖症-CCL5の意義
 ○島田 拓^{1,2)}、木村 俊郎²⁾、早狩 亮¹⁾、松宮 朋穂¹⁾、
 吉田 秀見¹⁾、今泉 忠淳¹⁾、袴田 健一²⁾
 (弘前大学大学院医学研究科 脳血管病態学講座¹⁾、
 同 消化器外科学講座²⁾)

- III-8 バレーボールによる膝前十字靭帯損傷の受傷状況調査
 ○菊田祐希子¹⁾ 木村由佳¹⁾ 佐々木静¹⁾ 奈良岡琢哉¹⁾
 山本祐司¹⁾ 津田英一²⁾ 石橋恭之¹⁾
 (弘前大学大学院医学研究科 整形外科科学講座¹⁾
 弘前大学大学院医学研究科 リハビリテーション医学講座²⁾)

背景：胆道閉鎖症（以下 BA）は新生児期における肝外胆管の硬化性胆管炎と線維性閉塞が基本病態であるが、その病因は未だ不明である。BA の病態形成には RNA ウイルス感染とそれによって引き起こされる自然免疫反応の関与が推測されている。近年動物を用いた胆道閉鎖症モデルにおいてある種のケモカインが過剰発現していることが報告されているが、ヒトの細胞においてこれらのケモカインの発現動態を調べた研究は存在しない。

本研究ではこうした BA への関与が強く示唆されるケモカインのうち特に CCL5 に注目し、ウイルス感染との関連および CCL5 の発現に関与する細胞内シグナル伝達の機序を調べた。

方法：ヒト胆管上皮細胞由来細胞株である HuCCT1 を培養し、人工的な二本鎖 RNA である poly IC で刺激を行い、CCL5 の発現動態を調べた。またウイルスに対する自然免疫応答に深くかかわる TLR3 と INF- β 、転写因子である NF- κ B (p65) および IRF3 に関して siRNA を用いたノックダウンを行い、これら各種タンパク質が CCL5 の発現にどのように関与するのかを調べた。

結果：HuCCT1 に対する poly IC 刺激では CCL5 の発現が亢進した。また TLR3、NF- κ B、IRF3 のノックダウンでは CCL5 の発現が减弱したが、INF- β のノックダウンは CCL5 の発現に影響を与えなかった。

結論：二本鎖 RNA で HuCCT1 を刺激すると、TLR3 シグナルによって CCL5 の発現が誘導された。この経路は NF- κ B と IRF3 を介しており、INF- β は関与していなかった。これはヒトにおいて二本鎖 RNA ウイルスが自然免疫応答を活性化し、それにより過剰発現した CCL5 などのケモカインが BA の病態形成に関与する可能性を示唆する。またこうしたケモカインの細胞内シグナル伝達経路の解明は BA の治療法開発につながる可能性がある。